

# 河口堰で汽水水域破壊

## 岐阜 長良川で環境観察会

岐阜県を流れる長良川の河口堰（かこうぜき）がおよぼす環境影響を追い河口堰の開門を主張している「よみがえれ長良川実行委員会」は2日、「湿地のグリーンウェイブ2024」参加イベントとして木曾三川下流域で「長良川下流域環境観察会」を開催しまし

た。観察会では、川岸にヨシ原のある木曾川の干潟の観察、背割り堤をはさんだ両側の長良川と揖斐川の川岸でのカニの採取、船に乗って採泥し川底の調査などを行いました。

千藤克彦氏（元長良川下流域生物相調査団員）は、木曾川のヨシ原で汽水域の植物や生き物を示しながら説明をし、「植物、鳥の鳴き声や土のおいなど五感で豊かな自然を感じてください。長良川ではこれらがなくなってしまう」と語りました。

3分間のカニの採取では、ヨシの少ない長良川で4匹、広いヨシ原のある揖斐川では大小58匹が採取されました。河口から4キロ地点の川底の採泥では、揖斐川は細かい砂、長良川はヘドロでした。砂泥と一緒にヤマトシジミそれぞれ3個と14個を採取しました。



長良川下流に転々と残るヨシ原を観察する参加者。2日、三重県桑名市（長良川河口堰から500メートル上流）

# 河口堰周辺「生態系いびり」

## 長良川 市民団体がカニ調査

三重県桑名市の長良川河口堰の生態系への影響を調べる「長良川下流域環境観察会」が、河口堰周辺で開

かれ、約20人の参加者が木曾三川の生物の生息状況の比較などを通し、運用開始から29年を前にした環境の

変化を市民レベルで検証した。

参加者はまず、オオヨシキリの鳴き声が響く木曾川のヨシ原を見学。ヨシ原が失われて生き物が乏しい長良川と、背割り堤を挟んだ揖斐川それぞれで、ベンケイガニなどの小型のカニ



採集数に差が出た揖斐川の分と長良川の分（右）のカニについて解説する千藤克彦さん（中央）＝三重県桑名市、揖斐川

を各3分間採集したところ、長良川が4匹、揖斐川が58匹と大きな差が出た。案内した長良川下流域生物相調査団の元調査員千藤克彦さん（63）＝岐阜市＝は「（海水が入りする）汽水域が破壊され、長良川はいびつな生態系になっている」と指摘した。

岐阜市から参加した長谷川遥子さん（13）は「カニの比較を見て違いに驚いた。汽水域しか生きられない生き物がたくさんいることも知らなかった」と話した。観察会は岐阜市の長良川市民学習会などでつくる「よみがえれ長良川実行委員会」の主催。舟による河口堰下流の川底の堆積物調査も実施した。（堀尚人）